



道元禅師ものがたり

7



—— 本当の師を求めて旅に出る道元禅師

宋の国にわたり、天童山の景德禅寺で坐禅に打ち込む道元禅師。景德禅寺の住職は、無了派禅師でした。了派禅師は高德で有名な臨济禅の高僧でしたが、この頃すでに七十五歳と高齢でした。体力も衰え、修行僧を直接指導することも数年前からほとんどなくなり、その年の秋、亡くなってしまいました。

正師を求める旅に

道元禅師は、仏法を求める旅に出ました。正師—— 本当の師を求める旅でもありました。まず、訪ねたのが天台山です。それ

から、あの老典座がいた阿育王山。阿育王というのは、インドで仏教を庇護したアショーカ王のことです。径山や瑞巖寺など、名高いお寺や高僧を次々と訪ね、修行を重ねました。

しかし、道元禅師の心の琴線に触れるような出会いはありません。心から尊敬でき、従えるような本当の師に出会うことはできませんでした。期待がしほみ、失望感にとらわれ、日本に帰ることさえ考え始めました。

そんなとき、ある寺で一人の老僧に出会いました。「ずいぶんあちこちのお寺を訪ねられているようじゃが」

No. 31
2010 Winter

山 松 舎
寺 南 臨

「名のある方々にお会いしましたが、この方こそという方に出会えませんが」「それなら、如浄禅師に会われたらどうですか。本物の仏法を会得しておられる方です。きつと得るところがありますよ」

不思議な夢を見る

如浄禅師は天童山にいました。了派禅師が亡くなった後、道元禅師が旅に出てしばらくして、天童山の住職になっていたのです。

道元禅師は急ぎ天童山に帰ることにしました。その途中、大梅山護聖寺に立ち寄り、一夜を過ごしたときのことです。この寺は、かつて大梅法常という高僧が開き、住職をしていました。その夜、不思議な夢を見ました。

法常禅師と思われる高僧が現れて、梅の花が咲いた梅の枝を授けられるの夢を見たのです。これはまさしく「霊夢」でした。道元禅師が、如浄禅師という正師に出会い、その仏法を伝授される予兆といえました。

如浄禅師と出会う

如浄禅師は、初め臨济宗を学びましたが、後に曹洞宗の師に認められ法嗣となりました。宋の禅僧たちが貴族化、官僚化の一途を辿るなかで、異色の存在として有名でした。

背が高く偉丈夫だったという如浄禅師。説法するときも虎や獅子がほえるように迫力があり、性格もかなり豪放な方でした。入門を求めてたくさんの修行僧が訪れていましたが、簡単には入門を許しません。真剣に仏道を求める心がなく、ただうわべだけで箔をつけようというような輩はお寺に上がることも許しませんでした。

しかし、道元禅師を一目見た如浄禅師は、仏道を求める心の一生懸命さを見抜き、入門を即座に許しました。宝慶元年（一二二五）五月一日、道元禅師二十五歳、如浄禅師六十二歳のことでした。

その道元禅師の帰りを待っていたように、一緒に宋に渡ってきた明全和尚が突然の病に倒れ、五月二十七日、彼岸へ旅立っていきました。

如浄禅師という真の師を得た道元禅師は、さらに厳しい修行へ打ち込んでいきますが、その話は次回ということにいたします。

一月十五日は 弁財天祈禱会の日

臨南寺では、新しい年を迎えて、

します。

一月十五日(土)午前十時から、本

法要の前には、護寺会の会計報

告、総代さんのあいさつ、そして、

弁財天さまは七福神の一人で、言

山形県の楊柳庵住職・木村尚徳

語、知識、音楽をつかさどり、知恵

老師の法話があります。椋伽林

と財福を授けてくださる神様で

では甘酒の振る舞いも行います。

す。当山の弁財天様も、合格祈願、

旧年のあれこれに感謝をささ

芸能上達、商売繁盛に靈験あら

げ、新しい年の幸せを祈るこの法要。

たかと伝えられています。

ご家族、お友達、お誘い合わせの上

法要では、『大般若波羅蜜多經』

お参りください。

六百巻の五七八「般若理趣分」を

転読いたします。『大般若波羅蜜

多經』は、古来より大きな靈力を

持つと信じられてきました。「般若

若理趣分」を転読するだけで、六

百巻すべてを誦誦したと同じ功

徳が得られるといわれています。

わが国が安らかで穏やかであ

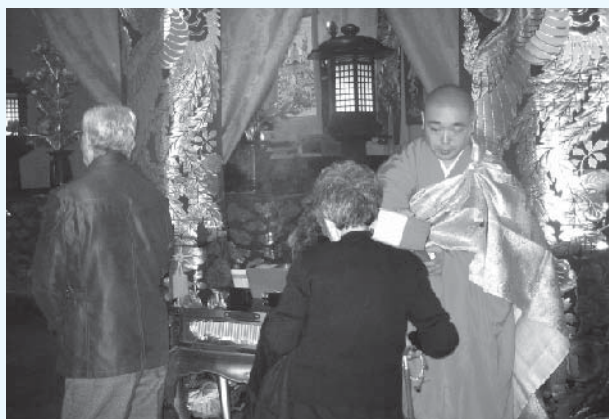
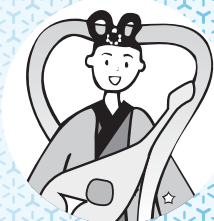
りますよう、世界から戦争や飢え

がなくなりますよう——そして、

檀信徒やご参拝の皆様の無病息災、

家門隆盛、家内安全を祈願し、お

札、お守り、破魔矢をお授けいた



無病息災、家内安全を祈念して……。

臨南寺 景百



地藏堂と六地藏

臨南寺の入口を入つてすぐ右にあ
るのが、六地藏をお祀りしている地
蔵堂です。

お地藏さまは、正式には地藏菩
薩といひます。「地藏」は、大地の
強い力を象徴しています。その大き
な力で、地藏菩薩はあらゆる場所に
身を変えて現れ、苦しむ人々を救っ
てくれます。地獄にさえも現れ、
地獄に落ちた人々を救済してくれま
す。菩薩でありながら僧の姿をして
いるのはそのためです。

平安時代の末期、仏教が民衆に
浸透していくにつれ、「地獄まで来
てくれて苦しみを代わりに引き受け
てくれる」お地藏さまへの信仰が強
くなりました。

さらに、お地藏さまが六道をめぐ
つて衆生を導くという信仰が六地藏

を生みました。六道というのは、「地
獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人
間」「天上」の六つで、人は死んだ
後、生前に犯した罪の深さによって
六道のどれか一つに行かれます。
お地藏さまは六道をめぐつて私たち
を導いてくださるのです。それが六
地藏です。

六地藏は、それぞれ持ち物が違
います。蓮華、錫杖、香炉、数珠、
宝珠……。合掌しているお地藏さ
まもいます。お参りのとき、どの
お地藏さまが何を持っているか確かめ
てください。



地藏堂に安置された6体のお地藏さま。

七十年前、臨南寺は山だった

— その2 —

昭和十二年生まれの私が子どもの頃、臨南寺は「山」と呼ばれていました。「山本」という姓も、家が臨南寺のそばにあったところから名付けられたと聞いています。



山本 渉さん

寺を囲んで大きな森がありました。子どもの私には、昼間でも真っ暗で入るのが怖いほどでした。明治の頃は、狐や狸はもちろん、耳のはえた大蛇までいるという噂までありました。

その頃は大人でも昼間に森に入るのを避けたそうです。明治二十三年（二八九〇）の調査資料によれば、竹が五千五百本あまり、樹木が松・モミ、檜・椎・樺・ハゼノ木など三百五十本あまりありました。そのなかには、松で高さ十五メートル、幹周り二メートルあまり、



椎で高さ九メートル、幹周り三メートルあまり、檜で高さ八メートル、幹周り一・六メートルなど、巨木が何本もありました。うっそうとした森の様子が見えます。それが変わったのは、大正の初め頃、臨南寺森の大木が次々に切り倒されたのです。その結果、次第に疎林となって荒れ果てて行きました。まことに残念なことでした。

釈尊涅槃会を

二月十五日に修します

二月十五日は、お釈迦様が入滅された日です。

自らの死期を悟ったお釈迦様は、故郷に向けて旅を始めます。しかし、クシナガラへ着いたとき、いよいよ死が迫ったことを感じたお釈迦様は、一緒に旅をしていた阿難に告げます。「サーラの双樹の間に寝床を用意してほしい。横になりたい」

お釈迦様は、頭を北に、右脇を下に、両足を重ねて横たわりました。そのときサーラの花が満開になり、お釈迦様の体に降ってきた。天上からも花が降り注ぎ、美しい音楽が聞こえてきました。

お釈迦様は、阿難に語りかけます。

「すべては過ぎ去るのだ。私が死んでも、お前たちは怠ることなく修行に努め、励みなさい」

それがお釈迦様の最後の言葉でした。静かに目を閉じ、微笑を浮かべたお釈迦様は、涅槃に至りました。涅槃とは「ニルヴァーナ」の訳で、「吹き消す」という意味です。お釈迦様から火が消えるように煩惱が消え、解脱されたのです。

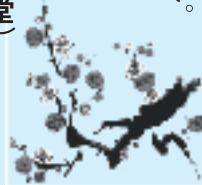
それが二月十五日でした。

臨南寺行事予定（一～二月）

○ 弁財天祈祷会（本堂）

二月十五日 午前十時～

昨年の反省を行い、新年を迎えて精進していく決意をする年頭の法要です。新しい年がよい年になりますよう、厄を払い福を招く法要を催します。温かい甘酒の振る舞いもごさいます。誘い合わせでお参りください。



○ 釈尊涅槃会（本堂）

二月十五日 午後三時～

お釈迦様が入滅された日の二月十五日、悲しむ弟子たちに囲まれたお釈迦様の寝姿を描いた涅槃図を掲げ、追慕と感謝の気持ちをささげる法要を営みます。

* 十二月三十一日～一月三日は、寺務所を閉めさせていただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

* 毎月第一土曜日に行っております早朝坐禅会は、一月はお休みさせていただきます。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

マトリ合同法要が 十二月十四日に催行されました

がつしょう園マトリの合同法要が、十二月十四日午後二時から本堂で営まれました。

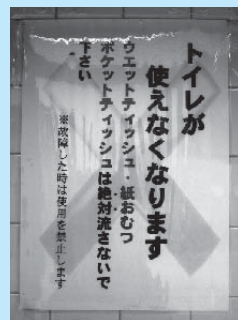
法要に先立ち、山形県からお越しいただいた楊柳庵の住職、木村尚徳老師の法話がありました。呼吸を自由自在にコントロールする話や坐禅の話が続きました。心に残ったのは、「過去も未来も、昨日も明日も頭の中の出来事ではない。一番確かなのは、ただ今の現実です。今この時をしっかりと生き切る事が大事です。今の瞬間を楽しんでもらいたいです」老師の静かな口調が心にしみて行きました。

法話のあと、マトリに移り、読経が続くなかでご霊牌に手を合わせていただきました。お墓の継承が難しくなっても供養してもらえ、マトリへの入会が増えています。



トイレにはトイレットペーパー 以外は流さないで

トイレットペーパーは水に溶けませんから、ポケットティッシュをトイレに流すと、トイレが詰まってしまう。便座を拭くときも、トイレットペーパーをお使いください。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。ご注意ください。お願いします。



年末年始のゴミは ゴミ用コンテナに入れてください

十二月三十一日～一月四日の間、寺務所の向かいにゴミ用コンテナを設置します。お墓まわりのゴミは、すべてそのゴミ用コンテナに入れてください。花や紙類だけでなく缶やビンもOKです。墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いいたします。

墓苑をご利用の 皆様へお願い

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻ください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料・千円

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

日本は不景気だといえます。一方でバブル期の前に帰っただけじゃないかという声もあります。確かにGDP(国民総生産)は1980年代と同じです。一度知った蜜の味はなかなか忘れられないということでしょうか。これからのキーワードは「足るを知る」かもしれませんね。記事のご感想をお寄せください。(M)

「ほ～っと」31号

平成22年11月

編集・発行： 稜伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com